

弓道ながの

第49号

発行：長野県弓道連盟
 会長 土川俊市
 〒399-6303
 塩尻市奈良井611
 TEL0264(34)3063
 編集：県弓連広報
 印刷：(株)成進社

巻頭言

講習会等での指摘事項

長野県弓道連盟副会長 重田 功



私が弓道を志してから四十三年になります。この間、講習会等に参加したのが年平均として三・五回として、百五十回受講したことになります。その度に諸先輩である先生方には、厳しくも思いやりのある御指導を受け、その都度あ、本日の講習会に参加してよかったと思ひながら修練し今日に至っております。

そこでどのスポーツにもそれぞれの基本があつて、その基本を重視し、日夜大切な時を、心技体を磨き追求しようとしている。弓道も基本体がありその基本を心・身に全うするよう、講習

会では数多くの指摘を受けました。その内の体配での主だった事項を列記しました。参考になれば幸いです。

- ・全ての動作と姿勢に縦線を生かす。
- ・入場時執弓の姿勢が基本通りであるか、基本通りきちんと出来ている方は少ない。そこで全員道場内で二人一組になり、たがいの姿勢を見て論じ合う(教本88ページ)。
- ・入場から本座までの歩行については先導者は一歩二歩とやや大股に入場し、二番以後の射手が余裕を持って入れるように、全射手は歩に合わせ、気合を入れて吸う息で二歩、吐く息で二歩のリズムで進む。歩きながら前の射手との距離一八〇cmとる。先導者が本座に向きを変えるときは左足先は、右足踵にあててL字に的正

面にやや間を於いて踏み出し進むと、射手全員がスムーズに、揃って向きを変え本座に進むことが出来る。

本座で半足引くのは、上位に対して敬意を表す動作である。此の短い動作でも息合いに合わせ気を抜かないこと。

・跪坐の姿勢で弓を保持したときは常に足を生かすこと。(左右)

・男子が肌脱ぎ、肌入れをした後、的正面に開き足で向きを変えるときは早めに弓の末弭を体の中央に持って来て下げること。

・矢番え動作で弦を返し、のときに、目せんは変えず右手で動作するときには床面と水平を保持すること。立ち上がるときは腰を切りつつ矢の面は、目の位置と水平を保ちつつ立ち上がること。

- ・足踏みの動作で右足を矢束を標準として外八文字に踏み開く時、袴の裾をゆらさないこと。息合いに合わせ腰から動くように。
- ・足踏みの動作で左足を自分の体より後に踏み出

してはいけない。

・射札で甲矢、乙矢を射終わって本座に戻る際、体重を両足の踵に乗せる様に背筋を伸ばし腰から下がるようにして足の裏は見せないように。多人数での行射時は、二番の人からは歩数でなく先の射手が座している位置よりさらに下がって横一線になるよう位置を決める。

・多人数での行射は皆でより良い作品を作るんだと云う気力、気合を入れて心身共に一生懸命努力し調和の美を発揮してください。

以上過去に於いて指導、注意、教えを指摘して頂いたことはまだ沢山ありますが日毎の修練、稽古にと精進し、礼に即した体配の修練、射品・射格の向上にと夢が拡がります。





去る三月二日松本で評議員会が開催されました。昨年十二月に開催された常任理事会に始まり、事業部会、理事会を経て作成された事業計画案、予算案について評議員会では活発な討議を経て平成二十五年度事業報告・決算報告と、平成二十六年事業案

平成二十六年 動き出す

事業計画について

総務部長 山田 雅亮

施計画並びに予算案が承認されました。四月初旬までの行事はすでに動き出していますが、これにより平成二十六年長野県弓道連盟の活動が正式に動き始めたこととなります。

当日土川会長は挨拶の中で、二十五年優秀地連得点で長野県が第二位になったことを紹介されました。これは平成十年度最優秀地連を獲得して以来の快挙です。また公益財団法人に移行した全日本弓道連盟の財政健全化対策としての会費値上げという会員にとって痛みを伴う変更についても言及されました。

前総務部長の丸山泰利先生の病氣ご療養のため、中途より本役を引き継がせていただきましたが、私の能力不足のため、あらゆる方面でご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。

今年度の「総務部」では、例年と同様の事業を計画しております。各



弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロッチ

〒384-1305
 長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
 HP: <http://www.teisanlodge.com/>
 ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

支部あるいは、各弓道会の皆さまには、大変お世話になります。何卒よろしくお願い申し上げます。

又、今年度は、会費徴収や各種料金の改定が施行されます。

会費徴収につきましては、既に、土川俊市会長から、各所におきまして、ご説明させていただきました通りでございますが、全日本弓道連盟の意向を受けて、長野県弓道連盟としての方針で、会費の徴収をさせていただきます。各支部長の皆さまをはじめ、会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

各種料金の改定につきましては、消費税の増税に伴いまして、審査関連の料金、大会参加料、各種販売物品代金など、あらゆる方面の金額が、細かい金額を伴って、値上げされます。額面にご注意いただくとともに、集金や送金、あるいは支払いの面で、煩雑なご面倒をおかけすることになるかと思いますが、こちらも併せて、よろしくお願いいたします。

平成二十六年度の事業を、滞りなく、且つ、盛況に実施するために、会員の皆さまの、ご支援ご協力を頂きますことを、二十五年度に引き続きお願いいたします。



そのほか二十六年度より変更になる主なものは、

指導部では「ミドルセミナー」「県内高校生代表者講習会」の新設。

競技部では全日本弓道選手権大会県予選会の二次予選がなくなり、予選は四射(一手二回)のみになります。

ジュニア部では中学生・高校生対象の「手引書」の作成等が予定されています。

詳しくは事業計画書をご覧ください。

弓仲間紹介

諏訪支部 四段 竹内 ひかり

茅野市弓道協会は今年で設立から三十六年になります。活動の拠点となっている茅野市運動公園内の弓道場は弓道協会設立の翌年に完成しました。当時は「十人立ちのできる神社風の建物」として地元の新聞にも取り上げられました。

設立当時は十五名だった会員数も、今では六十名を超えるほどになっています。

行事としては茅野市体協主催の年二回の体育祭と体協所属の武道団体のイベントである武道祭りがあります。

昨年十一月に行われた武道祭りでは弓道体験教室や演武の披露を企画しました。見学や体験に来てくれた方への対応は、協会員が協力して行いました。今回は手作りの的小のストラップを体験者にプレゼントしました。こうしたイベントを行う事で、弓道を身近に感じてもらう弓道を始めるきっかけになってくれればと思います。



そして弓道協会内での事業計画で一番のお楽しみは、二月の月例会として開かれる「お汁粉射会」です。昼にはお汁粉や豚汁、差し入れの漬物を食べながら楽しく歓談します。そのあと余興では「板割り」や「扇的」で大いに盛り上がりま

す。真冬の最中ではありますが、競技会や審査の無い時期でもあり和気あいあいと過ごせるひと時です。

また、「新入会員歓迎会」や「忘年会」などお酒を飲みながらの交流も楽しみのひとつです。初心者弓道教室後に入会した新人を囲みながら、弓道談義には花が咲き、段位やキャリアを越えて親睦を深めます。唯くれぐれも飲み過ぎには注意したいものです。

入会して九年になりますが定例の練習日や月例会などから遠ざかっていた時期もありました。そんな時、射会に誘っていただき弓道の楽しさを教えて下さった先輩、温かく見守り時には厳しく指導してくれた先生方、励ましてくれる弓仲間がいたからこそ弓道をやめずに、ここまでやって来ることが出来ました。本当に感謝しております。

スポーツ界における 暴力行為追放について

昨年四月(公財)日本体育協会、(公財)日本オリンピック委員会、(公財)日本障害者スポーツ協会、(公財)全国高等学校体育連盟、(公財)日本中学校体育連盟の五団体連名で『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』が発表されました。昨今いろいろなスポーツ団体での暴力行為が問題になっています。幸い弓道団体ではそのような問題は出ていないようですが、我々には関係ないことと無関心でいることは許されません。

そこで会員各位すでにご承知のこととは思いますが、改めて確認していただき、長野県弓道連盟の健全な発展に資するべくここに全文を掲載いたします。

『スポーツ界における 暴力行為根絶宣言』

【はじめに】

本宣言は、スポーツ界における暴力行為が大きな社会問題となっている今日、スポーツの意義や価値を再確認す

るとともに、我が国におけるスポーツ界から暴力行為を根絶するという強固な意志を表明するものである。

スポーツは私たち人類が生み出した貴重な文化である。それは自発的な運動の楽しみを基調とし、障がいの有無や年齢、男女の違いを超えて、人々が運動の喜びを分かち合い、感動を共有し、絆を深めることを可能にする。さらに、次代を担う青少年の生きる力を育むとともに、他者への思いやりや協同精神、公正さや規律を尊ぶ人格を形成する。

殴る、蹴る、突き飛ばすなどの身体的制裁、言葉や態度による人格の否定、脅迫、威圧、いじめや嫌がらせ、さらに、セクシュアルハラスメントなど、これらの暴力行為は、スポーツの価値を否定し、私たちのスポーツそのものを危機にさらす。フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツの価値とそれらを否定する暴力とは、互いに相いれないものである。暴力行為はたとえどのような理由であれ、それ自体許されないもの

であり、スポーツのあらゆる場から根絶されなければならない。

しかしながら、極めて残念なことではあるが、我が国のスポーツ界においては、暴力行為が根絶されているとは言えない現実がある。女子柔道界における指導者による選手への暴力行為が顕在化し、また、学校における運動部活動の場でも、指導者によって暴力行為を受けた高校生が自ら命を絶つという痛ましい事件が起こった。勝利を追求し過ぎる余り、暴力行為を厳しい指導として正当化するような誤った考えは、自発的かつ主体的な営みであるスポーツとその価値に相反するものである。

今こそ、スポーツ界は、スポーツの本質的な意義や価値に立ち返り、スポーツの品位とスポーツ界への信頼を回復するため、ここに、あらゆる暴力行為の根絶に向けた決意を表明する。

【宣言】

現代社会において、スポーツは「する」、「みる」、「支える」などの観点から、多くの人々に親しまれている。さらに21世紀のスポーツは、一層重要な使命を担っている。それは、人と人との絆を培うスポーツが、人種や思想、信条などの異なる人々が暮らす地域において、公正で豊かな生活の創

造に貢献することである。また、身体活動の経験を通して共感の能力を育み、環境や他者への理解を深める機会を提供するスポーツは、環境と共生の時代を生きる現代社会において、私たちのライフスタイルの創造に大きく貢献することができる。さらに、フェアプレーの精神やヒューマニティーの尊重を根幹とするスポーツは、何よりも平和と友好に満ちた世界を築くことに強い力を発揮することができる。

しかしながら、我が国のスポーツ界においては、スポーツの価値を著しく冒瀆し、スポーツの使命を破壊する暴力行為が顕在化している現実がある。暴力行為がスポーツを行う者の人権を侵害し、スポーツ愛好者を減少させ、さらにはスポーツの透明性、公正さや公平をむしろむしばむことは自明である。スポーツにおける暴力行為は、人間の尊厳を否定し、指導者とスポーツを行う者、スポーツを行う者相互の信頼関係を根こそぎ崩壊させ、スポーツそのものの存立を否定する、誠に恥ずべき行為である。

私たちの愛するスポーツを守り、これからのスポーツのあるべき姿を構築していくためには、スポーツ界における暴力行為を根絶しなければならぬ。指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織は、スポーツの価

値を守り、21世紀のスポーツの使命を果たすために、暴力行為根絶に対する大きな責務を負っている。このことに鑑み、スポーツ界における暴力行為根絶を以下のように宣言する。

一、指導者

○指導者は、スポーツが人間にとつて貴重な文化であることを認識するとともに、暴力行為がスポーツの価値と相反し、人権の侵害であり、全ての人々の基本的権利であり、スポーツを行う機会自体を奪うことを自覚する。

○指導者は、暴力行為による強制と服従では、優れた競技者や強いチームの育成が図れないことを認識し、暴力行為が指導における必要悪という誤った考えを捨て去る。

○指導者は、スポーツを行う者のニーズや資質を考慮し、スポーツを行う者自らが考え、判断することのできる能力の育成に努力し、信頼関係の下、常にスポーツを行う者とのコミュニケーションを図ることに努める。

○指導者は、スポーツを行う者の競技力向上のみならず、全人的な発育・発達を支え、21世紀におけるスポーツの使命を担う、フェアプ

レーの精神を備えたスポーツパーソンの育成に努める。

二、スポーツを行う者

○スポーツを行う者、とりわけアスリートは、スポーツの価値を自覚し、それを尊重し、表現することによって、人々に喜びや夢、感動を届ける自立的な存在であり、自らがスポーツという世界共通の人類の文化を体現する者であることを自覚する。

○スポーツを行う者は、いかなる暴力行為も行わず、また黙認せず、自己の尊厳を相手の尊重に委ねるフェアプレーの精神でスポーツ活動の場から暴力行為の根絶に努める。

三、スポーツ団体及び組織

○スポーツ団体及び組織は、スポーツの文化的価値や使命を認識し、スポーツを行う者の権利・利益の保護、さらには、心身の健全育成及び安全の確保に配慮しつつ、スポーツの推進に主体的に取り組む責務がある。そのため、スポーツにおける暴力行為が、スポーツを行う者の権利・利益の侵害であることを自覚する。

○スポーツ団体及び組織は、運営の透明性を確保し、ガバナンス強化に取り組むことによって暴力行為の根絶に努める。そのため、スポーツ団体や組織における暴力行為の実態把握や原因分析を行い、組織運営の在り方や暴力行為を根絶するためのガイドライン及び教育プログラム等の策定、相談窓口の設置などの体制を整備する。

スポーツは、青少年の教育、人々の心身の健康の保持増進や生きがいの創出、さらには地域の交流の促進など、人々が健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている。また、オリンピック・パラリンピックに代表される世界的な競技大会の隆盛は、スポーツを通じた国際平和や人々の交流の可能性を示している。さらに、オリンピック憲章では、スポーツを行うことは人権の一つであり、フェアプレーの精神に基づく相互理解を通して、いかなる暴力も認めないことが宣言されている。

しかしながら、我が国では、これまでスポーツ活動の場において、暴力行為が存在していた。時と場合によっては、暴力行為が暗黙裏に容認される傾向が存在していたことも否定できない。これまでのスポーツ指導で、とも

すれば厳しい指導の下暴力行為が行われていたという事実を真摯に受け止めて、指導者はスポーツを行う者の主体的な活動を後押しする重要性を認識し、提示したトレーニング方法が、どのような目的を持ち、どのような効果をもたらすのかについて十分に説明し、スポーツを行う者が自主的にスポーツに取り組めるよう努めなければならない。

したがって、本宣言を通して、我が国の指導者、スポーツを行う者、スポーツ団体及び組織が一体となって、改めて、暴力行為根絶に向けて取り組む必要がある。

スポーツの未来を担うのは、現代を生きる私たちである。こうした自覚の下にスポーツに携わる者は、スポーツの持つ価値を著しく侵害する暴力行為を根絶し、世界共通の人類の文化であるスポーツの伝道者となることが求められる。

【おわりに】

これまで、我が国のスポーツ界において、暴力行為を根絶しようとする取組が行われなかったわけではない。しかし、それらの取組が十分であったとは言いがたい。本宣言は、これまでの強い反省に立ち、我が国のスポーツ界が抱えてきた暴力行為の事実を直視し、

強固な意志を持って、いかなる暴力行為とも決別する決意を示すものである。

本宣言は、これまで、あらゆるスポーツ活動の場において、暴力行為からスポーツを行う者を守り、スポーツ界の充実・発展に尽力してきた全てのスポーツ関係者に心より敬意を表するとともに、それらのスポーツ関係者と共に、スポーツを愛し、豊かに育んでいこうとするスポーツへの熱い思いを受け継ぐものである。そして、スポーツを愛する多くの人々とともに、日本体育協会、日本オリンピック委員会、日本障害者スポーツ協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟は、暴力行為の根絶が、スポーツを愛し、その価値を享受する者が担うべき重要な責務であることを認識し、スポーツ界におけるあらゆる暴力行為の根絶に取り組むことをここに宣言した。

この決意を実現するためには、本宣言をスポーツに関係する諸団体及び組織はもとより、広くスポーツ愛好者に周知するとともに、スポーツ諸団体及び組織は、暴力行為根絶の達成に向けた具体的な計画を早期に策定し、継続的な実行に努めなければならない。

また、今後、国際オリンピック委員会をはじめ世界の関係諸団体及び組織とも連携協力し、グローバルな広がりを見せつつ、スポーツ界における暴力行為根絶の達成に努めることが求められる。

さらに、こうした努力が継続され、結実されるためには、我が国の政府及び公的諸機関等が、これまでの取組の上に、本宣言の喫緊性、重要性を理解し、スポーツ界における暴力行為根絶に向けて、一層積極的に協力、支援することが望まれる。

最後に、スポーツ活動の場で起きた数々の痛ましい事件を今一度想起するとともに、スポーツ界における暴力行為を許さない強固な意志を示し、あらゆる暴力行為の根絶を通して、スポーツを愛する人々に共有される文化として発展させていくことをここに誓う。

平成25年4月25日

公益財団法人日本体育協会

公益財団法人日本オリンピック委員会

公益財団法人日本障害者スポーツ協会

公益財団法人全国高等学校体育連盟

公益財団法人日本中学校体育連盟

(次号では(公財)全日本弓道連盟から出されました『倫理に関するガイドライン』を掲載する予定です)

私と弓道

南佐久支部 錬士六段 日向 力

高校時代の恩師柴韓治郎著『源頼朝弓馬四天王』のあとがきに「伊那北弓道部創設は昭和三十八年である」とあります。正月休みに先生が三ヶ月分の給料を投じて弓具を購入し、前年の十月から始めた弓道修練に一層弾みをつけ、五月の高校総体県大会では、前年度国体優勝の飯山北高校(顧問故古澤博先生)を十二射十一対十で破り、全国大会に出場。級も段もない初心者だったわけですが、「陽気発する処亦金石透る」という恩師の言葉を今も大切にしています。当時は袴もなく、トレパン姿で山形県酒田市の大会に臨み羽分けの成績でしたが、大理石のように光る射場での行射は、忘れえぬ青春の一コマです。私たちに特別使用許可された常円寺境内の伊那市営弓道場で毎日、夜八時、九時まで修練した記憶。

稽古に見えた彈塚寛先生(故人)に山川茂樹先生、信州大学農学部学生の桜井さんをはじめ多くの諸先生方の厳しくも温かいご指導により叩き上げられた結果が実を結

んだのだと思います。まさに「精神一統何事か成らざらん」です。

平成十六年の講習会で古澤先生が、「あのときの射を思い起こせ」と小声で囁かれたことも現在の稽古に生きている言葉です。伊那から佐久へ転居し、白田弓道会にお世話になって二十年近くになりますが、故日暮千曲先生に師事して、平成十七年六月に一回目の受審(新潟市)で錬士昇格を認められたことは、奇跡といえるかもしれません。

毎月の伊那研修会では、青春の頃から一貫して私の心を貫く求道精神をいま再び正し、前向きな弓道生活へと導いてくださる山川茂樹先生に心より感謝申し上げます。「射行は流水の如く、残心は開花に似たり」は、常に私の稽古の銘となっており、射の道は遠く、また深いものと思ふ今日この頃です。



追悼

小林義行先生を偲んで

基本を正しく稽古を

長鉄支部長 辰野 正雄



故・小林義行先生

近年にない記録的な大雪もようやく収まってきた、去る二月二十日に病氣療養中の小林義行先生がご逝去され、長鉄支部の大黒柱を失ってしまいました。

弓士の皆さまにも、まだまだ御指導を頂きたいところでありましたが、誠に残念であります。

職域の関係から長鉄支部内では、範士先生にも拘らず「ごこうさん」の愛称で呼ばせていただき、親しさを感じながらのお付き合いでした。

昭和二十五年に弓を始められ、若い頃は一晚中家へ帰らず稽古をしたことも何回かあったとお聞きしております。

昭和三十年代は京都の全日本大会

で、準優勝や三位の成績を残すなど、早くから頭角を現しておられたそうです。

昭和四十年代からの長鉄支部最盛期には、国体・全国鉄大会や全日本勤労者大会など、常連者として数多く出場し活躍されました。大会後の懇親会などでは、話題が豊富な先生でありましたので、何時も輪の中心的存在で大いにその場を盛り上げて楽しくしてくださいました。

昭和五十三年の「やまびこ国体」で、強化委員長・成年男子監督として選手をまとめ、天皇杯総合二位の成績を残されたことは、皆さんご存知のとおりであります。

昭和五十四年十月に長野運動公園クラブの発足に併せて、活動拠点を運動公園弓道場に移し、弓道教室の講師として熱心に指導と研修に当たられ、昇段・昇格者を多数輩出してくださいました。

また、同時期に長野皐月高校の弓道部顧問として学生の指導育成にも当たられ、底辺拡大を図ってください

いました。このことは、後に当支部主催の近県高校大会の盛況にも大きな影響を与えました。このころの先生は少々若返っていらしたように思われます。

昭和五十八年から先頃まで長野市弓道連盟会長として毎年各種大会の実施にご尽力され、現在も当大会が益々盛況に進捗しております。特に平成元年には、遠的射場の併設並びに会議室増築を長野市長に申請し、積極的働き掛けで実現しました功績は多大であります。また、その間に何度となく全日本選手権大会に出場

され、その体験談を基に後進の指導をされておられました。

その他、県弓連でも常任理事長をはじめ幾多の役員を長年歴任され、県弓連発展に大いなる貢献をされました。

「基本を正しく稽古を」をモットーに稽古され、昭和五十九年五月八段に昇段、平成元年五月には範士昇格とハイペースで昇段・昇格されたことは当支部の誉れであります。最後に生前の多面に渡りご尽力されたご功績に敬意を表し、併せて先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。





丸子弓道会木曾義仲拳兵

武者行列に参加

上小支部 鷹野 良信



丸子地域では、平安時代に武将木曾義仲が平家追討のため御嶽堂地区で挙兵したと伝えられています。御嶽堂地区には今も義仲が挙兵に当たり木曾の地を離れこの地に来て、依田氏の館に入り信濃、関東の武將を



集めて軍団を整えこの地で旗揚げしたと伝えられています。今も丸子地区の「砂原峠」又東御市本海野「白鳥神社」向側の千曲川河原に旗揚げをしたと伝えられる所が残っています。又義仲が戦勝を祈願したと云う岩谷堂宝蔵寺があります。参詣をした折馬で登った道が今でも「義仲馬大門」として伝わっています。又義仲手植えの桜は「義仲桜」(樹齢八百年)とも呼ばれ往時を今に伝える春を今も告げています。

昨年四月には御嶽堂地区の「義仲館跡」に木曾義仲信州丸子会が芝生を敷き門柱を建てました。信州丸子義仲祭り実行委員会では「信州丸子義仲祭り」と位置づけさまざまイベントを計画し昨年十月五日、六日には「げんきまるこ産業フェスタ」に併せて「木曾義仲拳兵武者行列」を四年ぶりに行いました。この実行委員会に丸子弓道会も参加をして「弓

隊」として行列を盛り上げました。公募による「義仲」「巴御前」役の後には弓武者、子供武者、侍女、槍武者等が続き上丸子商店街を約百人が練り歩きました。行列はマツヤ丸子店前から丸子駅で折り返し丸子地域自治センターまでの約二キロを歩き、丸子総合グラウンドに入りました。

平安時代にタイムスリップしたような勇壮で可憐な行列に沿道のみならず「歴史を感じさせるいいものを見る事が出来た」とか「こう云う行列が見られて幸せだ」と話す住民が多く見ておられました。最終の丸子総合グラウンドでは丸子弓道会による「かぶら矢」の演武と「つくばい」による大的への射込が行われて大勢の観衆から大きな拍手をいた



いただきました。

尚現在も丸子弓道会では「木曾義仲拳兵県下弓道大会」を行って県下の弓友の皆さんに盛り上げていただいております。

武者行列に参加した会員からの感想です。

高木賢一さん

仮装しての参加だったので疲れたが、本当にいい思い出になった。

関本吉人さん

参加出来て良かった。弓道を見なおす事が出来たので尚良かった。



畑の中に見つけたもの

長野支部 加藤 明美

随分前のある時、善光寺クラブの笠井先生が、愛犬とお散歩をしておりました。

「あれえ：こんな所にテニスコート？」

ええ！もしかしたら弓道場……」

お話は、こんなことから始まりました。ちいさ発の記事を担当することになり、何か珍しいことは、何か話題性のあることはないかと思案しておりました。そんな折、善光寺クラブの奥山先生からも「随分前に、風間松岡・大豆島辺りに弓道場があるらしい……という噂を聞いたことがあるよ」というお話がありました。

お二人のお話らしいに留まり、ちつともはつきりしませんでした。そこで、現地へ出かけ、あつて砕けろで笠井先生と一緒に厚かましく突撃訪問をさせて頂きました。するとそこには、まさに、個人の立派な素晴らしい弓道場があったのです。

道場主の浅野美代子様にご紹介を！とお願ひ致しましたところ、快諾して頂きました。



弓道自分史とマイ道場

浅野 美代子

長野弓道連盟の皆様こんにちは。東京都第二地連所属ですが、投稿させて頂くことになりました。

どんなに弓道が好きで、上手で熱心に修練を重ねているからといって弓道を続けていけるわけではありません。

私は中学校弓道部で弓道を始めて、高校二年で浦上栄範士に師事し浦上道場に入門して今日に至っています。入学した大学には弓道部がなかったため、弓道部を創部して、四年生の時には東京都学生弓道連盟リーグ戦に出場し、次の年には学内に四人立ち弓道場が落成しました。大学生時代は「弓キチ・朝から晩まで稽古して弓のことを考えている」で、卒業時には弓道プロになりたかったけれど、その道は全く銀行に就職しました。

教員になることが、

中学一年からの夢でしたが三十五年もかかりようやく実現し、そこには立派な弓道部がありました。偶然でしたが、弓道部長交代時で、一人の教授推薦を頂いて弓道部長に就任致しました。二十五年ぶりに再び大学弓道部にかかわることになりました。



三分の二



打起



胴造

た。こちらは、毎年毎年躍進を続けて十六年目になり「学生日本」を競っています。このように弓道自分史を振り返ってみると、いくつもの偶然が積み重なって弓道を続けているとつくづく思います。

あるときテレビを見ていると、鳥の絵を描く画家を紹介する番組でした。画家は鳥の動きを細かく観察するために、自宅で鳥の飼育を行っていたという説明でしたので、十姉妹かカナリアかなと思っていたら、動物園にあるような大きな鳥の檻が画面に映し出されて驚きました。ここまでやならければならないと感心しました。

弓の稽古では弓道場に行かなければならず、往復と稽古時間で少なくとも連続した三時間が必要ですが、生活の中でこの三時間が取れません。自宅にもし弓道場があったら移動する時間がなくてよいと考えていました。しかし、弓道場建築には広い土地も必要です。

長野市内に、昭和四十年頃に四軒並んで建てられた家のうち一軒が手放されることになりました。しかしこの土地は、開発業者が六軒に分割販売するということでした。付近の風景も素晴らしくて、現状を保存できたなら良いと考えていました。幸いなことに、銀行の理解もあつて入手でき、母屋は外形そのままです。

フォームし、庭木を一本も切ることなく、葱畑に弓道場(三人立ち)を建築し、平成二十二年九月に弓道場開きを行いました。その後残念なことに、平成二十三年三月に東日本大震災があり、翌年の平成二十四年七月には、四十肩で右手と肩が全く動かさなくなり「我が弓道人生が終わった」と思いました。幸いこちらは一年でほぼ回復できました。

弓道大会での優勝や入賞の経験はございませんが、今までに参加した大会や審査で多くの弓友ができましたので、「全国の浅野ファンの期待に応えよう」といつも勝手に考えて弓道の修練を行っています。

マイ弓道場は、講演会や勉強会などにも使えるように畳の設置も可能になっています。現在の夢は、私はリケン(理系女子)なので、統計学を用いて矢勢(やせい)の科学的解明を行いたいです。

(弓道五段 大東文化大学弓道部部长、お茶の水女子大学弓道部弦音会会長) 素晴らしい弓道場のご紹介有難うございました。この記事をきっかけに弓友の輪が広がって行くのを楽しみにしております。



善光寺弓道場

大会結果

2013 野辺山洗心弓道大会

○平成25年11月30日(土)～12月1日(日)

- 1位 亀岡英司(南佐久) 近の17・遠的18・合計35
- 2位 野田明宏(富山) 近の14・遠的17・合計31
- 3位 安藤直貴(須高) 近の16・遠的13・合計29
- 4位 石黒 佑(富山) 近の15・遠的14・合計29
- 5位 征矢理啓(上田千曲高校) 近の14・遠的11・合計25

第69回 国民体育大会 弓道競技 少年男女 1次選考会

○平成26年1月25日、26日、2月8日、9日

- ▲一次予選通過者 少年男子(41名)
- 井出 佑馬(上田千曲) 今井 博之(上田千曲)
 - 山岸 大貴(上田千曲) 佐藤 峻(上田)
 - 奈良本龍哉(上田) 水間 祐貴(岩村田)
 - 佐藤 大地(岩村田) 松坂 仁樹(上田柴谷)
 - 金澤 太陽(岩村田) 中村 駿介(長野吉田)
 - 小林 和樹(長野日大) 宮川 岳大(屋代)
 - 宮坂 健太(北部) 千野 翔(長野日大)
 - 小林 翔太(篠ノ井) 千野 翔(長野日大)
 - 青木俊太郎(長野日大) 新海 龍哉(北部)
 - 熊井 匠(須坂) 原田 俊樹(長野高専)
 - 高木 友輔(長野日大) 矢野 佳太(長野西)
 - 小林 大樹(伊那弥生ヶ丘) 大和(赤穂)
 - 中島 拓也(飯田風越) 小松 邦憲(諏訪二葉)
 - 片桐廣太郎(飯田風越) 小池 邦憲(諏訪二葉)
 - 平林 嶺(伊那弥生ヶ丘) 紘夢(岡谷南)
 - 金子 夏暉(岡谷工業) 富濱 紘夢(岡谷南)
 - 塚原 優太(伊那弥生ヶ丘)
 - 蟹澤 史弥(駒ヶ根工業) 花村 光松(本深志)
 - 藤原 伊織(松商学園) 小野 隆哉(松商学園)
 - 百瀬 桂太(松商学園)
 - 赤羽 峻(松本美須ヶヶ丘)

- 勝川 翔伍(大町)
 - 濱 亮太(松本美須ヶヶ丘)
 - 山田 和輝(松本美須ヶヶ丘)
 - 金井 俊也(松本美須ヶヶ丘)
- ▲一次予選通過者 少年女子(42名)
- 齋藤 早紀(小諸商業) 関 実沙樹(小諸商業)
 - 松本 佳奈(上田千曲) 山浦 美咲(上田千曲)
 - 宮原 彩果(上田千曲) 上原かなえ(北佐久農業)
 - 藤田 櫻子(上田東) 野本愛理沙(上田柴谷)
 - 高橋 琴乃(飯山北) 三井 由菜(長野西)
 - 伊藤 優生(長野西) 上條真里菜(長野高専)
 - 庄田ひろ(長野東) 米持 奈々(長野日大)
 - 小池 優佳(長野日大) 塩崎 葵(長野日大)
 - 西澤保乃(華文化学園長野)
 - 小島 綾音(文化学園長野)
 - 栗山 萌子(中野立憲館) 宮島 百香(屋代)
 - 中島 冬萌(屋代) 駒村 直子(屋代)
 - 戸田 涼香(伊那西) 上村 蓮美(赤穂)
 - 森 由佳(飯田風越) 荒井ひとみ(岡谷南)
 - 三浦 和夏(赤穂) 片桐 未菜(飯田風越)
 - 関 美穂(諏訪二葉) 横田ひかり(飯田風越)
 - 小出 円香(辰野) 北原 知佳(伊那西)
 - 草深明日香(松本美須ヶヶ丘)
 - 堀内 遥香(穂高) 松尾 滯(豊科)
 - 須賀友里(加松本美須ヶヶ丘)
 - 下枝菜里(松本美須ヶヶ丘)
 - 塩原 萌香(松本美須ヶヶ丘)
 - 新井朝也(松商学園) 赤津みなみ(松商学園)
 - 川上 真由(松本美須ヶヶ丘)
 - 大久保 咲(松商学園)

- 平成26年2月9日(日) 中野市営弓道場
- 参加人数…一般33名
- ▲一般個人の部
- 1位 小田切祐典(小諸支部) 86中
 - 2位 市川 隆光(諏訪支部) 85中
 - 3位 大島 勝巳(小千谷市) 81中

第22回 中野冬季百射会

飯島町弓友会 第32回百射会

- 平成26年2月11日(火・祝) 飯島町弓道場
- 1位 岩原 祐貴(岡谷工業)

- 2位 小松 徹朗(上伊那支部)
- 3位 春日 貴(上伊那支部)
- 4位 湯澤 幸司(上伊那支部)
- 5位 平澤 孝一(上伊那支部)

駒ヶ根市体育協会 百射会

- 平成26年2月23日(日) 駒ヶ根市弓道場
- 1位 小松 徹朗(宮田村)
 - 2位 湯澤 幸司(駒ヶ根市)
 - 3位 春日 貴(駒ヶ根市)
 - 4位 竹村 茂明(駒ヶ根市)
 - 5位 水田 明美(駒ヶ根市)

昇段昇格者

- ◆「東京」特別臨時中央審査
- ▽錬士の部(平成25年12月21日) 竹内 博(長野支部)
- ◆「名古屋」定期中央審査
- ▽錬士の部(平成26年2月8日) 高木 涼子(上小支部)
- ▽六段の部(平成26年2月9日) 山田 清夫(松本支部)

お悔やみ申し上げます(敬称略)

- 長野県弓道連盟 顧問(長鉄支部) 範士八段 小林義行(85歳) 平成26年2月20日(木)逝去
- 長野県弓道連盟 前総務部長(大北支部) 錬士五段 丸山泰利(71歳) 平成26年3月17日(月)逝去

くすり

平成二十四年七月十日第四十二号の「弓道ながの」(ひとりごと)の欄で長野市松代にある重要文化財文武学校について、紹介いたしました。今回は、その続編を…とします。

校内には、文学所・剣術所・槍術所・弓術所等、文武両道の施設があります。会員が使わせて頂いている弓術所の年間行事の内容については、次の様です。

平成二十五年度としては、「弓道体験」…旅行者を対象として、26回。遠くは、名古屋・岐阜・宮城・熱海等から。

「弓道体験会」…定期的に開催している体験教室が7回。(春・秋の遊学文化祭を含む)

「弓道体験視察」…2回。北信地区社会教育研究大会・外国人のための体験メニュー視察。

「番組取材」…3回。NBS「わがまま気まま旅気分」長野市の大会取材「月曜スペシャル」

そうそう、一番の行事は毎年六月の第二週に実施される「松代文武学校弓術大会」です。現在、文学所の改修工事が行われており、弓術所の改修工事も近々行われます。改修後の楽しみは勿論ありますが、その間一二年使用できなくなるのが寂しい事です。今年が改修前最後の「松代文武学校弓術大会」になるかも知れませんので大勢のご参加お待ちしております。

大蔵先生(須高支部)が中心となつて、会員の一人として微力ながら弓道の普及に参加させて頂いています。

(長野支部 加藤 明美)